

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業	604				604
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

令和4年3月に改訂した「学校図書館活用教育推進ビジョン」及び「学校図書館活用ハンドブック」をもとに、就学前から小、中、高等学校まで一貫した見通しを持った学校図書館活用教育の一層の普及を図る。

G I G Aスクール構想により、1人1台端末の本格的な活用が積極的に進められている中、これからの学校図書館活用教育に求められていることを講義と演習をとおして学び、学校全体での実践につなげる研修を実施し、学校現場での図書館活用教育の推進を支援する。

(イ) 事業の実施状況

○学校図書館活用教育普及講座の実施

期日等	・令和4年8月19日(金) 東中西部地区対象 オンライン
参加者	合計96名 (対象：小中学校・特別支援学校教職員・市町村教育委員会指導主事)
内容	G I G Aスクール時代の教育実践と学校図書館 ～1人1台端末時代の学校図書館に関する最新の情報、授業活用例について～ 午前：講義「G I G Aスクール時代の教育実践と学校図書館」 演習：学校図書館で活用できる情報・検索ツール メディアの特性を考える図書館の利用指導について 講師：帝京大学教育学部初等教育学科 教授 鎌田和宏氏 ・講師が東京から遠隔で講義と演習を行うオンライン開催

○学校図書館司書研修会(年1回)

内容・講師	期日	参加者	会場
G I G Aスクール時代の学校図書館～ICTの活用と学びの活性化～ 講師：野末俊比古氏(青山学院大学人間科学部教授)	12月6日(火)	24名	倉吉未来中心 リモート

○学校図書館司書実務研修会

内容・講師	期日	参加者	会場
「学校図書館の活用と司書の役割について」 講師：鳥取中央育英高校 前田久美子司書主任、県立高校司書主任	7月28日(木)	12名	鳥取県立中央育英高等学校

○学校司書のためのICTスキルアップ研修

内容・講師	期日	参加者	会場
「Google Workspaceの仕組みとアプリの基本的な操作について」 講師：Google社 福家夏希氏	6月29日(水)	42名	鳥取県教育センター

「Google Workspaceの仕組みとアプリの基本的な操作について」 講師：Google社 福家夏希氏	6月30日(木)	62名	米子コンベンション
「Google Workspaceの仕組みとアプリの基本的な操作について」 講師：Google社 長谷川藍子氏	9月7日(水)	22名	倉吉体育文化会館

○学校図書館支援員の研修会派遣

- ・学校図書館関係職員対象 派遣回数20回 研修参加人数399名

研修会	実施市町村	内 容
市町村教育委員会及び市町村立図書館主催研修会	鳥取市、岩美郡、八頭郡（東部小教研）、三朝町、琴浦町、大山町、西伯郡小教研、米子市、江府町、南部町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの読書習慣を育む学校図書館</li> <li>・学校図書館と著作権</li> <li>・とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン（改訂版）について</li> <li>・学校図書館を活用した授業づくり</li> <li>・学校図書館におけるICT活用</li> <li>・授業研究会（1年、6年）</li> <li>・学校図書館と司書教諭、学校司書の役割 など</li> </ul>

○県教育センターとの連携

- ・学校図書館支援員が講師を務めた。令和4年6月13日（月）合計3回 研修参加人数165人

研修会	対 象	内 容
新任司書教諭研修	小・中・高・特別支援学校の新任司書教諭	「学校図書館と司書教諭の役割」
司書教諭研修(小・特)	小・特別支援学校の全司書教諭、学校司書（希望者）	「学校図書館の活用と司書教諭の果たす役割」
司書教諭研修(中・高)	中・高等学校の全司書教諭、学校司書（希望者）	「学校図書館の活用と司書教諭の果たす役割」

○高校生の読書推進事業

- ・「高校生にすすめたい本リスト」作成  
高校、特別支援学校の学校図書館より紹介された高校生へのおすすめ本39冊を掲載したリストを作成し、電子データとして県内の高校・特別支援学校へ送付。
- ・「すぐできる！情報検索ガイド-図書館の便利ワザ-」「デジタルパスファインダー」作成  
学校図書館を活用し、情報活用能力の育成を図ることを目的に県立高校司書主任を中心に作成。データ化しているため、生徒各自の端末での利用が可能となっている。

○「全国高等学校ビブリオバトル2022鳥取県大会」

日 時	令和4年12月11日（日）午後1時～午後3時30分
場 所	倉吉体育文化会館 大研修室・中研修室・小研修室
出場校・出場人数	10校・10名
参加人数	64名（出場者・観覧者・スタッフ等）
チャンプ本	『空白小説』（氏田雄介ほか著/ワニブックス）倉吉西高等学校

○授業活用選定用見本図書の貸出

- ・学校や各市町村立図書館に紹介。合計4セットを貸出した。
- ・全点購入の新刊児童図書（選定用）の利用が多かった。（3,641冊）

イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修を会場参集及びリモート開催のハイブリット開催にする等の工夫により研修の機会を確保するように努めた。

## ウ 成果及び効果

- ・令和4年3月に改訂した「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」の概要版をリーフレットにし、幼稚園、小中義務教育学校、高等学校、特別支援学校の全教職員に配布し、普及に努めた。また、「学校図書館を活用することで身に付けたい情報活用能力系統表」をA2版ポスターにし、全小中義務教育学校、高等学校、特別支援学校に配布し、研修会などで広報した。
- ・各学校では、年間授業計画の見直しが進んだり、学校図書館を活用した授業実践が見られるようになっていたりしているところであるが、より一層の活用を進めるため、「学校図書館活用年間計画作成のための資料」も作成、公開した。「学校図書館活用年間計画作成のための資料」は、小学校と中学校の作成例を地区別・学年別に作成した各学校の状況に合わせて活用できるようにしており、研修会などでも周知を図っている。令和4年度は高校で作成された年間計画をモデルとして紹介し、各校の教育課程や特色に合わせて活用できるようにした。
- ・公共図書館職員向けの研修で学校図書館支援についてのテーマを扱う機会が増え、公共図書館と学校図書館の連携につながっている。

## エ 課題

- ・GIGAスクール構想の実現に向けて各市町村でも環境整備が進められており、学校図書館でもICTを活用した教育活動の展開が求められている。学校図書館のDX化を見据えた資料提供や研修の開催など、学校図書館や公共図書館支援を充実させていくことが必要である。
- ・新学習指導要領に基づく授業が実施される中、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に向けた情報提供や研修内容が求められる。
- ・各学校における探究的な学習での学校図書館の活用に差があるため、「学校図書館を活用することで身に付けたい情報活用能力体系表」を活用し、学校図書館関係者にとどまらず、全教職員の意識を高めるため、研修や情報提供を行っていく必要がある。
- ・情報活用能力の育成に不可欠な、計画的な学校図書館活用が県内で伸び悩んでいる実態があるため、「学校図書館を活用することで身に付けたい情報活用能力体系表」を活用し、系統的な学校図書館の利用を促進するための研修会の開催や情報提供をしていく必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
デジタル化時代の知の拠点づくり事業	24,394				24,394
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

地域の歴史や文化に関する資料を次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料のデジタル化を推進するとともに、容易に利用できる望ましいデジタルアーカイブシステムの構築について検討し公開する。

(イ) 事業の実施状況

○デジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」(以下「とりデジ」)の運用  
・図書館、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターと共同のシステムを令和3年3月1日に一般公開した。公開データ件数約46万件(令和4年12月末現在)

○「とりデジ」の広報・研修

・図書館業務専門講座でデジタルアーカイブについての講義・質疑・演習

日時：令和4年10月5日(水)

講師：大阪市立中央図書館 澤谷晃子氏

内容：地域資料のデジタルアーカイブとその活用を考える

参加人数：30名

・郷土文化講演会でとりデジの紹介

日時：令和5年3月12日(日)(予定)

演題・講師：「地域史研究と地域の活性化」坂本敬司氏

とりデジの紹介 県立図書館 中村司書

○資料デジタル化の推進

・郷土資料のデジタル化(5年計画の5年目)

令和4年度デジタル化資料(鳥取県近代文学資料 194点)

令和4年12月末デジタル化総数：2,626件

○地方出版物のデジタル化

・地方出版のデジタル化に関わる勉強会

日時：令和4年6月20日(月)

講師：ワイズネット 山本有希子氏

内容：出版物のデジタル化の手法についての講義と、県内の出版社や印刷会社と地方出版物のデジタル化に関する協議と意見交換。

参加人数：12名

イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

・とりデジの活用促進のための講座を開催した。

・デジタル化について市町村への説明を行った。

・総合的なデジタル化計画の改定作業を開始した。

・とりデジ掲載の古文書資料の翻刻文作成に活用できる古文書講座を開催した。

・電子書籍について、ベンダーとの協議やデモ、無料トライアルを行い、導入に向けて課題整理を行い検討を進めた。

ウ 成果及び効果

- ・とりデジのアクセス件数が約43万件（R3.3～R4.12）となった。
- ・郷土資料のデジタル化を進めることができた。
- ・公開資料に目次・内容、解説等を追記した。
- ・資料のデジタル化や電子書籍の導入について県内の市町村立図書館でも関心が高まり、勉強会が開催された。

エ 課題

- ・とりデジへの公開資料を増やすとともに、活用を推進すること。
- ・職員の経験を蓄積し、知識と技術を身に付けること。
- ・とりデジをより使いやすくするため、次のシステム更新に向けて情報収集を行い検討を進めること。
- ・市町村立図書館や大学図書館等、関連機関との連携を進めること。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
仕事と暮らしに役立つ図書館推進事業 (暮らしに役立つ図書館推進事業)	7,792	1,857			5,935
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

図書館が所蔵する多様な資料や専門職としての司書の能力を最大限に生かし、地域の情報拠点として、県民の情報要求に応え、県民の生活課題に即した情報提供を実現する。

(イ) 事業の実施状況

<医療・健康情報の提供>

○暮らしに役立つ医療・健康情報サービス普及啓発事業講演会

「最新情報から考える感染症の流行とこれからの生活様式

～ Withコロナ時代の図書館の医療・健康情報サービス ～」

内容

(1) 講演「新型コロナウイルスと共生するための生活様式と知識」

講師 景山誠二氏

(鳥取県新型コロナウイルス対策専門家チームメンバー、  
鳥取大学医学部教授・副学部長)

(2) 報告「図書館の医療・健康情報サービス」

報告者 高橋真太郎氏(境港市民図書館 副館長)

(3) 質疑応答

実施日	令和4年10月2日(日)
会場	境港市民交流センターみなとテラス
参加者	計：56名(会場：34名、オンライン：22名)

○展示

・「ひとりで悩まないで」(令和4年9月1日～9月29日)

自殺予防週間にあわせて展示を実施 協力：県福祉保健部健康医療局健康政策課

・「認知症になっても暮らしやすいまちづくり」(令和4年9月1日～29日)

世界アルツハイマーデー、世界アルツハイマー月間にあわせて展示を実施

協力：県福祉保健部ささえあい福祉局長寿社会課

・その他、健康づくりや医療をテーマとしたミニ展示を実施

今日からできる高齢者のフレイル予防(令和4年5月1日～令和4年6月29日)

感染症の流行とこれからの生活様式(令和4年9月1日～9月29日)

11月8日「いい歯の日」(令和4年11月1日～11月29日)

こころや体がしんどいと感じたら(令和4年12月13日～令和5年1月30日)

○その他

・がん情報ギフト※による情報提供(継続)

※国立がん研究センターが全国の図書館にがんに関する資料を寄贈。県立図書館では医療・健康情報コーナーに設置するとともに、県内の図書館へ貸出できる「がん情報ギフト」貸出セット(見本)を用意している。(県内8市町の図書館ががん情報ギフトの寄贈を受けている。)

・県立厚生病院のほっとこーな一管理(令和4年7月から実施(1ヶ月ごとに入替))

※県立中央病院は、新型コロナウイルス等を理由に中止している。

<法情報・困りごと解決支援情報の提供>

- 「法テラス鳥取法律講座」をオンライン開催  
主催：日本司法支援センター鳥取地方事務所（共催：県立図書館）
- 「小学生裁判傍聴会 法廷に行ってみよう！」（新型コロナ感染状況を考慮し、中止）  
主催：鳥取県弁護士会（共催：県立図書館）
- 関連機関と共同で相談会を開催（会場：県立図書館）

相談会名	開催時期、参加者数
鳥取県司法書士会無料相談会	新型コロナ感染状況を考慮し4～8、12月は中止。9～11、1月に4回開催30名参加
鳥取県行政書士会外国人何でも相談会	新型コロナ感染状況を考慮し4月は中止。5～1月に9回開催9名参加

<子育て応援情報の提供>

- 「読みメンになろう！」プロジェクト事業  
・読みメン月間の企画展示

期間等	令和4年6月1日（水）～6月29日（水）場所：1階一般図書室階段下
内容	読みメンにおすすめの絵本、リーフレット等の展示
貸出冊数	144冊

- ・読みメンのおはなし会（男性職員による絵本の読み聞かせ）の開催

開催日	令和4年6月18日（土）、8月7日（日）、12月17日（土） ※定員制、事前申込制。2回目は「きょうりゅう&かいじゅうのおはなし会」も兼ねて開催
参加者	51名：子ども29名、大人22名

- 託児サービス「託児<sup>らい</sup>で来ぶらり」

開催日	毎週水曜日 午前9時～正午 ※11月16日、12月7日に実施。その後新型コロナウイルス感染拡大防止のため再度中止。
内容	子ども連れで来館する利用者向け託児サービス
参加者	3名

- 「子育て応援コーナー」の管理  
・子どもと一緒に来館した利用者が、子育てに必要な情報を1ヶ所で得られるよう、児童図書室の入口にコーナーを設置している。

令和4年度貸出冊数	2,856冊
-----------	--------

<高齢者サービス情報の提供>

- 「あたまイキキテレビ音読教室」の実施  
・県立図書館ホームページへの誘導を目的にケーブルテレビによる音読教室の放映を行った。過去に放映された映像は当館のホームページでも公開している。  
（東部地区）日本海ケーブルネットワーク  
（中部地区）鳥取中央有線放送  
（西部地区）中海テレビ放送  
放送日：（前期）令和4年10月から11月  
（後期）令和5年2月から3月（予定）

○「いきいきライフ応援コーナー」の運営

- ・超高齢化が進む中、中高年齢者に関心の高い分野の図書を提供するとともに関連する図書の展示を行った。

令和4年度貸出冊数	7,001冊
-----------	--------

<障がい者サービス情報の提供（障がい者に配慮した「はーとふるサービス」推進事業）>

○鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会の開催

「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」に基づく鳥取県の読書バリアフリー推進事業等の取組状況等について、事業等の評価や進行に関する有識者等の意見を聴取することを目的として、以下のとおり開催した。

- ・第1回

実施日	令和4年9月22日（木）
会場	事務局を鳥取県立図書館大研修室に設置。 委員13名中12名参加（会場：5名、オンライン：7名）、1名欠席

- ・第2回令和5年2月14日（水）開催予定

○読書バリアフリー研究会の開催

- 1 主催：公益財団法人伊藤忠記念財団 共催：鳥取県立図書館、鳥取市立図書館
- 2 内容：

- (1) 障がいのある子どもたちへの読書サポート

講師：鳥取大学附属特別支援学校 教諭 田中葉子氏、学校司書 入川加代子氏  
元鳥取県立白兔養護学校 司書教諭 児島陽子氏

- (2) 見えにくさのある人への読書サポート

講師：鳥取県ライトハウス点字図書館 情報支援員 遠藤崇仁氏  
鳥取県見えにくい人を考える会 副会長 谷口慎二氏

- (3) 電子書籍の基礎知識とアクセシビリティの可能性

講師：ワイズネット 山本有希子氏

- (4) 鳥取市立図書館の読書バリアフリーへの取り組みについて

講師：鳥取市立中央図書館 館長 長本次郎氏

- (5) 鳥取県立図書館の「はーとふるサービス」について

講師：鳥取県立図書館 情報相談課図書担当 司書 藤原拓也

- (6) マルチメディア DAISY 図書「わいわい文庫」の紹介

講師：伊藤忠記念財団 電子図書普及事業部 田中文氏

- (7) バリアフリー図書の展示・ロービジョンへの「見やすさ」体験

■バリアフリー図書コーナー（大活字本、LLブック、さわる点字絵本など）

■マルチメディア DAISY 図書コーナー（わいわい文庫収録タブレット端末）

■ロービジョンへの「見やすさ」体験コーナー（拡大読書器、弱視シミュレーションレンズ等）

実施日	令和4年6月19日（日）
会場	鳥取県立図書館大研修室及び Zoom によるオンライン視聴
参加者	139名（会場：57名、オンライン：82名）

○マルチメディアデージー体験会の開催

- 1 主催：鳥取県立図書館  
共催：社会福祉法人鳥取県ライトハウス点字図書館、NPO法人鳥取県自閉症協会
- 2 内容：

- (1) 鳥取県立図書館の「はーとふるサービス」の紹介

鳥取県立図書館 情報相談課図書担当 司書 藤原拓也

- (2) マルチメディアデージーの紹介・利用体験

講師：鳥取県ライトハウス点字図書館 酒井 詩織 氏

実施日	令和4年5月15日（日）
会場	鳥取県立図書館大研修室
参加者	9名（申込10名中1名欠席）



○「手話で楽しむおはなし会」の開催

実施日・参加者	毎月第4日曜日・延べ 43名：子ども18名、大人25名
---------	-----------------------------

※定員制、事前申込制で実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した期間あり。

○「バリアフリー映画上映会」の開催

令和5年3月1日（水）開催予定

○障がい者サービス実務担当者会の開催

図書館サービスの向上を目指し、図書館利用に障がいのある方々に対する各館の取組について情報共有や協議を行うことを目的として、以下のとおり開催した。

実施日	令和5年1月13日（金）
会場	倉吉交流プラザ 視聴覚ホール
参加者	25名

○アクセシブルな書籍等所蔵数

令和4年度（12月末時点）	令和3年度	増減
17,521点	17,276点	245点増

○アクセシブルな書籍等貸出数

令和4年度（12月末時点）	12,974点
---------------	---------

○はーとふるサービスコーナーの充実

- ・デジ図書・マルチメディアデジ図書の充実（約900点を追加し、現在約1,400点をコーナーへ配架）
- ・プレクストークリンクポケットの購入（1台）

○展示

- ・世界自閉症啓発デー、発達障害啓発週間（令和4年4月1日から4月29日）
- ・マルチメディアデジ～「読みかた」のカタチ～（令和4年5月1日から5月30日）

○その他

- ・読書バリアフリー啓発パネルの貸出（公共図書館2館、県立高校7館、県立特別支援学校1館、計10館）

イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・くらしに役立つ医療・健康情報サービス普及啓発事業講演会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、会場参加及びオンライン参加を可能とするハイブリッド開催を実施した。境港市民図書館のリニューアルオープンの記念事業の一環として開催した。広報も境港市民図書館が積極的に行っていたが、県内外からの参加者があった。参加者募集においては読書バリアフリーの観点から、音声コードを印字したチラシの配布や講義資料の点訳、手話通訳、要約筆記なども配置した。
- ・ケーブルテレビによるテレビ音読教室は、全県を対象として放映した。また、情報活用講座については、いつでも再開できるようテキストを整備した。
- ・令和2年度に策定した「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」や図書館の読書バリアフリーの取組について、また、障がいに配慮した様々な資料や機器について周知・啓発するため、関係機関等と連携し、「読書バリアフリー研究会」や「マルチメディアデジ体験会」等を開催すると共に、県内図書館に読書バリアフリー啓発パネルの貸出を行った。
- ・新型コロナウイルスの影響で2年以上実施できていなかった「託児で来ぶらり」について、感染症対策を行った上で再開することができた。

ウ 成果及び効果

- ・くらしに役立つ医療・健康情報サービス普及啓発事業講演会は、新型コロナウイルスについて参加者の日頃の疑問を解決する機会となったが、加えて、境港市民図書館の医療・健康情報提供について周知することができた。

- ・伊藤忠記念財団との共催により、鳥取県では初の開催となる「読書バリアフリー研究会」を開催し、県内外から多くの方に参加いただき、鳥取県の読書バリアフリー推進のきっかけとすることができた。

#### エ 課 題

- ・医療・健康情報に関する資料を速やかに収集・提供するとともに、市町村立図書館との連携によるサービスの充実が求められる。
- ・今後も、「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を一般県民や関係者等に周知するとともに、この計画に基づき、読書バリアフリー推進のための具体的な取り組みを関係機関等と連携して実施していく必要がある。
- ・県内の障がい者サービスの実態を把握することに努め、今後の市町村立図書館の障がい者サービスの充実を図る必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
仕事とくらしに役立つ図書館推進事業 (図書館ビジネス支援推進事業)					
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

県全域での図書館のビジネス支援体制を推進するため、各地域の図書館と協力し、全域でのビジネス支援サービスの定着、利用者の掘り起こしに取り組む。産業振興や雇用を創出することは、地域活性化を考えるうえで極めて重要な課題であり、商工団体、産業支援機関との連携を強化し、図書館の機能を生かしたビジネス支援を積極的に行っていく。

(イ) 事業の実施状況

○第5回「図書館で夢を実現しました大賞」の実施

募集期間	令和4年7月1日(金)～10月28日(金)
応募件数	9件
審査会	令和4年12月14日(水)
表彰式	令和5年3月14日(火)
受賞者	最優秀賞(1件)：上住 潤子 氏(オーガニック白髪染め専門店 美染) 優秀賞(2件)：増田 晋也 氏(アイメモリア株式会社) 福石 幸生 氏(株式会社福神総合研究所)

○「としょかんビジネストーク」ホームページへの掲載

掲載開始日	令和4年11月29日(火)～
URL	<a href="http://www.library.pref.tottori.jp/business/cat6/new.html">http://www.library.pref.tottori.jp/business/cat6/new.html</a>
掲載企業 (10件、敬称略)	株式会社美染、アイメモリア株式会社、ツキノアカリ、きみのいばしょ サイエンス&ソーイング教室、米粉の焼き菓子専門店 葉月、日華ふれんず、白木屋種苗株式会社、株式会社マリナノファイバー、株式会社福神総合研究所、吉村産業株式会社

※図書館で開催する各種相談会・セミナー・資料相談等で得た情報を、起業・経営等に役立てご活躍されているビジネスパーソンにインタビューを行い、記事をホームページに掲載した。

○「夢・実現スタートアップ創業勉強会」の開催

期日等	令和4年9月17日(土) 会場：境港市民交流センターみなとテラス 中会議室
参加者	9名
主催・共催	主催：鳥取県立図書館 共催：境港市民図書館
内容	・「図書館で創業や経営に役立つリサーチ・マーケティング力をつけよう」 講師 樋野 泰広 氏(鳥取県よろず支援拠点 チーフコーディネーター) ・図書館から情報提供(境港市民図書館 高橋 真太郎) ・相談会(3組3名)

期日等	令和4年9月23日(金) 会場：鳥取県立図書館 大研修室
参加者	5名
主催	主催：鳥取県立図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館で創業や経営に役立つリサーチ・マーケティング力をつけよう」講師 樋野 泰広氏(鳥取県よろず支援拠点 チーフコーディネーター)</li> <li>・図書館から情報提供(鳥取県立図書館 中村 愛)</li> <li>・相談会(1組1名)</li> </ul>

期日等	令和4年10月15日(土) 会場：倉吉交流プラザ 第一研修室
参加者	3名
主催・共催	主催：鳥取県立図書館 共催：倉吉市教育委員会
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館で創業や経営に役立つリサーチ・マーケティング力をつけよう」講師 樋野 泰広氏(鳥取県よろず支援拠点 チーフコーディネーター)</li> <li>・図書館から情報提供(鳥取県立図書館 立石 彩夏・倉吉市立図書館 高木 朋子)</li> <li>・相談会(2組2名)</li> </ul>

○「高校生ビジネスプラン作成講座」の開催

期日等	令和4年8月2日(火) 会場：米子市立図書館
参加者	6名(3校、3グループ)
主催・共催	主催：(株)日本政策金融公庫、鳥取県立図書館 共催：米子市立図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビジネスプラン作成講座(アイデア発想編)」講師 岩成 達也氏((株)日本政策金融公庫)</li> <li>・図書館活用講座(米子市立図書館 佐々木 智子)</li> <li>・INPIIT鳥取県知財総合支援窓口のご紹介、J-PlatPat 操作体験(INPIIT鳥取県知財総合支援窓口 澤田 宏二氏)</li> <li>・プラン作成、発表</li> </ul>

期日等	令和4年8月5日(金) 会場：鳥取県立図書館
参加者	3名(1校、2グループ)
主催	主催：(株)日本政策金融公庫、鳥取県立図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビジネスプラン作成講座(アイデア発想編)」講師 岩成 達也氏((株)日本政策金融公庫)</li> <li>・図書館活用講座(鳥取県立図書館 中村 愛)</li> <li>・INPIIT鳥取県知財総合支援窓口のご紹介、J-PlatPat 操作体験(INPIIT鳥取県知財総合支援窓口 山本 明良氏)</li> <li>・プラン作成、発表</li> </ul>

※県立図書館では令和元年度以来3年ぶりの対面開催、また西部では初の開催。

○鳥取県立図書館と産業支援機関との連携展示

展示期間	令和4年11月1日(火)～12月27日(火)
展示場所	鳥取県立図書館 一般図書室 雑誌架横展示コーナー、ロビー
関係機関	鳥取県事業承継・引継ぎ支援センター、鳥取県商工労働部企業支援課
内容	事業承継について考えよう!

※承継の種類やプロセス等をはじめ、経営管理・経営計画・マーケティング等企业経営に関する本まで、事業承継に役立つ図書の展示。また、県の支援制度や、鳥取県事業承継・引継ぎ支援センターについてのチラシ等も配架し、事業承継について知っていただき理解を深めていただく機会とした。

○ビジネス情報相談会の開催（会場：県立図書館）（4月～1月）

- ・県立図書館司書と「鳥取県よろず支援拠点」の相談員による相談会。相談者が求めるビジネス情報の検索は司書が行い、経営相談は鳥取県よろず支援拠点の相談員が行う。倉吉・米子の各会場も図書館職員が同席し、相談に応じた。

会場	開催日	相談数
鳥取会場	毎月第3火曜日	9件
倉吉会場	毎月第1水曜日	3件
米子会場	毎月第3金曜日	18件

○関係機関と連携し定期相談会を開催（会場：県立図書館）（4月～1月）

相談会名	共催等関係機関	開催日	参加者数（延数）
創業・融資相談会	（株）日本政策金融公庫	毎月第2日曜日	17名
起業・経営 なんでも相談会	（一社）鳥取県中小企業診断士協会	毎月第2日曜日	
知財無料相談会	INPIT鳥取県知財総合支援窓口	毎月第3火曜日	14名
就農相談会	鳥取県農業経営・就農支援センター	年3回	1名

○商工労働関連研修会、イベントへの出前図書館等の実施（5回）

研修会、イベント名	開催日	会場
農林水産部場長会議	令和4年5月17日（火）	鳥取県庁本庁舎
鳥取県商工会連合会支援員向け研修	令和4年5月31日（火）	鳥取県商工会連合会
とっとり創業塾	令和4年10月2日（日）	鳥取商工会議所
公設試等女性研究者技術交流会 in とっとり	令和4年11月2日（水）	とりぎん文化会館
D×時代の人材投資「リスクリング」はじめの一步セミナー	令和5年1月15日（日）	とりぎん文化会館

○企画展示「鳥取県認定グリーン商品リレー展示2022」の開催

内 容	鳥取県認定グリーン商品リレー展示2022	
展 示 物	鳥取県認定グリーン商品の実物展示、紹介パネルの展示など	
主 催	鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会	
展 示 館	12館（県立1、市町村3、高等学校7、大学1）	
期 間	令和4年7月28日（木）～令和5年2月1日（水）	
展 示 館	展示期間	
（県立図書館）		
鳥取県立図書館	令和4年7月28日（木）～8月30日（火）	
（市町村立図書館）		
ちえの森ちづ図書館	令和4年9月3日（土）～9月16日（金）	
日南町図書館	令和4年11月4日（金）～11月13日（日）	
湯梨浜町立図書館	令和4年11月24日（水）～12月22日（木）	
（高等学校図書館）		
倉吉北高等学校	令和4年8月22日（月）～9月13日（火）	
鳥取湖陵高等学校	令和4年10月13日（木）～10月27日（木）	
鳥取商業高等学校	令和4年10月27日（木）～11月22日（火）	

八頭高等学校	令和4年11月28日(月)～12月21日(水)
境港総合技術高等学校	令和4年11月30日(水)～令和5年2月1日(水)
青谷高等学校	令和5年1月10日(火)～1月27日(金)
米子工業高等学校	令和5年1月10日(火)～1月18日(木)
(大学図書館)	
公立鳥取環境大学情報メディアセンター	令和4年10月28日(金)～11月17日(木)

※循環資源を活用した製品の展示物とともに、SDGsとリンクさせ関連図書等を図書館で展示した。

○鳥取県認定グリーン商品 出張授業の実施

期日	令和4年11月18日(金)
会場	鳥取商業高等学校
参加者	生徒16名、教職員2名
講師	中川 優広 氏 (鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会会長)
内容	「鳥取県グリーン商品普及促進協議会」の紹介、鳥取県認定グリーン商品の認定要件と商品説明、実験(「ネスナイト」粉末を使用した泥水の浄化)

※第2学年の選択授業「マーケティング」の一環として実施。学校に出向いての普及事業は初。

○鳥取県認定グリーン商品子ども向けイベント「自由研究お役立ち講座&工作 教えて☆グリーン商品ってなに」の開催

期日等	令和4年8月6日(土) 会場：鳥取県立図書館
参加者	6名
主催	鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会、鳥取県立図書館
講師	中川 優広 氏 (鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会会長) 矢倉 修司 氏 (鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会幹事)
内容	鳥取県認定グリーン商品の説明、クイズ、工作(ペットボトルを使用したプランター作り)

※子どもを対象とした普及事業は初。

○新型コロナウイルス感染拡大により中止となった事業

期日等	令和4年8月23日(火) 会場：鳥取県立図書館
参加者	—
主催	INPIT鳥取県知財総合支援窓口、鳥取県立図書館
内容	特許・商標・意匠検索方法講習会 ・J-Platpat、Graphic Image Parkの概要 ・「特許・実用新案」「商標」「意匠」に関する検索実習

イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・相談会を共催する機関と密な意見・情報交換を行い、意思疎通を図った。特に「図書館で夢を実現しました大賞」事業実施にあたり、例年以上に情報共有が図られた。
- ・講座等の開催に際しては、市町村立図書館と協力し、事前準備・役割分担等を行った。
- ・講座や出前図書館等で参加者へ県立図書館や市町村立図書館のビジネス支援について周知した。
- ・相談会の一部はオンラインにも対応した。コロナ禍であっても感染予防対策を徹底しながら必要な情報に触れていただく機会を提供した。

## ウ 成果及び効果

- ・「図書館で夢を実現しました大賞」及び「としょかんビジネストーク」を通して、図書館を活用し起業・経営等に結びついた事例を収集し、それらの広報に努めた。
- ・出前図書館で図書館活用の説明を行った結果、当館の各種相談会の利用につながった。
- ・金融機関からの紹介で、資料相談を目的に来館されるケースや、産業支援機関の職員が調査のための資料相談で来館されるケースが増えており、図書館のビジネス支援機能への理解が進みつつある。
- ・「ビジネスプラン作成講座」は米子会場を加え2会場で開催し、西部地区の高校生にもビジネスアイデアの発想法や図書館の活用法について学んでいただく機会を作ることができた。また、本年度は新たにINPI T鳥取県知財総合支援窓口とも連携し、ビジネスプラン作成に役立つ知財活用について分かりやすく説明いただいた。共催館である米子市立図書館との連携がスムーズに行われ、次年度は単独開催も期待できる。
- ・「夢・実現スタートアップ創業勉強会」では鳥取県よろず支援拠点及び共催館と連携し関係が強化できた。図書館からの情報提供では「図書館で夢を実現しました大賞」の過去の事例や「とりサーチギャラリー」の展示内容にも触れ、図書館が情報収集に役立つ場であることを効果的にPRできた。
- ・グリーン商品巡回展示では、市町村・学校・大学図書館等12か所での開催となり、県内企業の取組を広く知っていただく機会を作ることができた。また、子どもや生徒を対象とする新規事業を多く実施し、若年層にも図書館が仕事や暮らしに役立つ場であることをアプローチした。

## エ 課題

- ・無料の相談会があることや、関連団体を紹介できること、商用データベースの利用等、図書館のビジネス支援機能を広く県民に知ってもらえるような発信を積極的・魅力的に行う必要がある。
- ・図書館のビジネス支援機能の周知や職員のスキルアップを図るため、講座やセミナー等をより一層市町村立図書館と連携して実施しながら運営方法、機材等の情報共有を行うことで、中西部地域でもビジネス支援サービスを拡大していく必要がある。
- ・当館で行ったビジネスに関する展示等を県内図書館や学校図書館等で行うことなどにより、図書館のビジネス支援機能に係る認識を広め、活動を県内に浸透させていく必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
人の成長・学びを支える図書館推進事業	232				232
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

乳幼児期からの子どもの読書推進を図るため、子どもたちに日常的に接する職員（幼稚園教諭、保育士、公共図書館職員等）の資質向上や、市町村立図書館児童図書部門の支援を行う。

経済的に困窮する家庭やひとり親家庭などの「サポートの必要な家庭」を、図書館の「資料」や「場」の活用を通じて支援する。市町村立図書館と連携してサポートの必要な人へ図書館サービスを届けると共に、本を読むだけではない「居場所」としての図書館の可能性を追求する。

(イ) 事業の実施状況

&lt;子ども読書活動推進&gt;

○「子どもと本をつなぐ講座」の開催

- ・公共図書館職員、学校図書館関係職員等の子どもと子どもの本に関わる人々が、発達段階に応じた子どもの本の魅力や選び方について学ぶことで、子どもの読書活動に関する理解や関心を深め、取組のさらなる充実と促進をはかる。

期日等	令和4年12月1日（木） 会場等：県立図書館、岩美町立図書館、倉吉交流プラザ、町立みささ図書館、北栄町図書館、キナルなんぶ、日野町山村開発センター、オンライン
参加者	111名
内容	「子どもの本の紹介文の書き方」と題した、絵本や読み物の紹介文を書く際の心構えやコツについての講義 講師：川上博幸氏（元奈良県香芝市民図書館長、JLA児童青少年委員会委員）

○「児童サービス実務研修講座」の開催

- ・県内公共図書館職員がストーリーテング、絵本の読み聞かせ等の子どもと本をつなぐ手法や児童サービスの基礎について学び、実践や意見交換を通じて互いに学び研鑽し合うことで、各図書館における児童サービスのさらなる充実を目指す。

開催日	テーマ等	共催館	参加者等
第1回 令和4年7月21日（木）	ストーリーテング	岩美町立図書館	14名
第2回 令和4年9月29日（木）	わらべうたと絵本の読み聞かせの実践 講師：山根郷子氏 (米子市立図書館)	米子市立図書館	34人

※第3回は令和5年2月16日（木）に開催予定。

名称	内容・期日等	参加者等
めざせ！図書館マスター	令和4年4月15日（金）～5月11日（水） 図書館の決まりや使い方をすごろく形式で出題。近隣の図書館でも実施できるようホームページで公開した。	63人



ブラインド・ブック・フェア	ブックカバーをつけた本を展示し、貸出	102冊	
夏休み図書館まつり	シールラリー「あつめて とりデジ！」	113人	
	7月26日(火) 8月7日(日)	きょうりゅう&かいじゅうのおはなし会	39名
	8月6日(土)	自由研究お役立ち講座&工作「教えて☆グリーン商品ってなあに」	6名
	8月9日(火)	オンライン図書館たんけんたい	7名
「えほんのじかん」	毎週火曜日開催	114名(大人50名、子ども64名)	
「おはなし会」	第4を除く日曜日	子ども25名	
「大人も楽しむおはなし会」	毎週土曜日	36名(大人17名、子ども19名)	
新刊児童図書の選定用貸出	市町村立図書館等へ貸し出し	3,305冊	
<p>「ドリームティーンズコーナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10代青少年の問題意識や興味に沿った資料収集やコーナー展示を実施、ホームページや通信の発行等による情報発信を行った。            展示テーマ：「こたミス、復活！」(貸出冊数337冊)            「見た目で選んじやいました。」(貸出冊数123冊)            「秋色本棚」(貸出冊数109冊)</li> <li>・「児童×ドリームティーンズ」(児童書から10代向けの読み物への橋渡しとなるよう、登場人物が概ね中学生以上の児童書を配架したコーナー)            (貸出冊数2,665冊)</li> </ul>			
<p>時宜に応じた児童図書室の資料展示を実施。</p> <p>展示テーマ：「夏だ！夏だ！！」(貸出冊数577冊)            「魔女・魔法・まほうつかい」(貸出冊数331冊)            「おいしい秋がやってきた」(貸出冊数551冊)ほか</p>			

※各おはなし会は、定員制、事前申込制とし、感染症対策を徹底した上で実施。  
 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した期間あり。

<「サポートの必要な家庭」応援事業>

○「図書館=居場所！キャンペーン」

新型コロナウイルス感染症の拡大により実施を見送った。

イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・「子どもと本をつなぐ講座」では、市町村立図書館にサテライト会場としての協力を呼びかけ、主会場である当館と併せ7会場で受講可能となった。オンライン受講の希望も多く、遠隔地の方にも多数参加していただくことができた。
- ・コロナ禍でおはなし会等のイベントや児童サービスの集合研修を安定的に実施できないことが課題だったため、「子どもと本をつなぐ講座」「児童サービス実務研修講座」のハイブリッド開催、特別支援学校に向けたオンラインでの読み聞かせ・ブックトーク、「オンライン図書館たんけんたい」に取り組んだ。
- ・夏休みには、「とっとりデジタルコレクション」に親しむきっかけづくりを目的としたシールラリー「あつめてとりデジ！」や博物館の「ティラノサウルス展」にちなんだ「きょうりゅう&かいじゅうのおはなし会」等に新たに取り組んだ。
- ・ガイナレ鳥取のホームゲームや、とりぎん文化会館「七タコンサート」で読み聞かせと出前図書館を実施した。

ウ 成果及び効果

- ・おはなし会や図書の企画展示、おすすめ本の紹介など、日々の活動により、親子で本を楽しむことや子育てに読み聞かせを取り入れることの良さが認知されることにつながっている。
- ・ハイブリッド開催を取り入れたことで、講座や研修を安定的に実施できた。また、遠隔地からも参加しやすく、多数の参加があった。

- ・夏休みの新たな取組や出前図書館は、非来館者や通常のおはなし会に参加したことのない利用者に当館の読み聞かせを体験してもらう機会となった。

#### エ 課 題

- ・講座・研修のハイブリッド開催により、全県的に参加しやすくなった反面、参加者同士のつながりを醸成することが難しくなっている。今後もハイブリッド方式を活用し、市町村立図書館職員、学校図書館関係職員等にスキルアップの機会を継続的に提供しつつ、子どもと子どもの本に関わる人々が連携しやすい環境づくりに努める必要がある。
- ・新型コロナウイルスの影響により、居場所としての活用推進は厳しい状況であったが、コロナ禍において、経済的に困窮する家庭への支援が必要であることを再認識した。今後は「身近で安全な居場所」と「情報提供機能」の両面を生かした取組を進めていきたい。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
郷土情報発信事業	2,983			0	2,983
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

郷土資料（地域資料）の収集・保存を進め、後世へ伝えるとともに、郷土資料の普及・啓発、郷土関係文学者情報の発信等を行い、利用促進を図る。

(イ) 事業の実施状況

鳥取県の歴史・文化、文学、郷土出身人物等に対する県民の関心を高めるため、関係機関、団体とも連携しながら、資料展、講演会等を有機的に組み合わせて開催した。

○ふるさとの歴史再発見事業

名称	期日	会場	参加人数	講師・備考
企画展示「KAI・TAI—SHIN・SYO—初公開！『解体新書』がやってきた！—」	R4.8.1（月）～8.30（火）	県立図書館 2階 特別資料展示室	1250名	
郷土文化講演会「地域史研究と地域の活性化」	R5.3.12（日）予定	県立図書館 2階 大研修室	—	講師：坂本敬司氏（元鳥取県立博物館学芸員、元鳥取県史編さん室長）
鳥取県に伝わる昔話を聞く会	7回開催（第4土曜日） 4月、8月中止	県立図書館 2階 小研修室	94名	語り手：中嶋須美子氏

○郷土情報発信事業

名称	期日	会場	参加人数	講師・備考
古文書に親しむ講座・としょかんでくずし字を読んでみよう	（第1回） R4.7.24（日） （第2回） R4.9.4（日）	県立図書館 2階 大研修室	各27名	講師：入江宜明氏（元若桜町立わかさ生涯学習情報館長、郷土史家）

○「文字・活字文化の日」関連事業

・「ブックインとっとり記念講演会」の開催（ブックインとっとり実行委員会と共催）

期日・参加者等	令和4年11月3日（木・祝） オンライン開催 参加者：28名
内容	ブックイン鳥取2022 第35回地方出版文化功労賞受賞記念講演会 ・講演1「京料理人の威信にかけて、鱧は完璧にやりとげねば」 奨励賞受賞者：朝尾朋樹氏（元料亭「馳走高月」店主） ・講演2「畑は私の气象台—みかん農家兼業編集者の日録より」 奨励賞受賞者：柳原一徳氏（みずのわ出版代表） ・講演3「古文書に学んだ紙のパワー・・・災害映像を数百年先に伝えるために」 特別賞受賞者：木戸嵩之氏（朝日放送テレビ「おはよう朝日です」気象情報デスク・人と防災未来センター リサーチフェロー）

○その他の企画展示等

名称	期日	会場	備考
鳥取大火から70年～あの日のまちのすがた～	R4. 4. 15(金)～ 5. 11(水)	県立図書館2階 ふるさと鳥取コーナー	
愛鳥写真集～5月10日～16日は愛鳥週間～	R4. 5. 13(金)～ 6. 8(水)	県立図書館2階 ふるさと鳥取コーナー	
資料で見る“鳥取大丸”	R4. 6. 10 (金) ～7. 28(木)	県立図書館2階 ふるさと鳥取コーナー	
時代を切り拓いた鳥取の女性たち	R4. 5. 13(金)～ 8. 29(月)	県立図書館2階 通路ギャラリー	よりん彩と連携
山陰を走る鉄道の世界	R4. 8. 4(木) ～9. 29(木)	県立図書館2階 ふるさと鳥取コーナー	
9月12日はとっとり県民の日～もっと知りたい“鳥取力”～鳥取生まれの情報マンガ・商品などをご紹介します～	R4. 9. 1(木) ～9. 29(木)	県立図書館2階 通路ギャラリー	産業未来創造課との連携
名和中学校のふるさと学習ポスター	R4. 10. 1(土)～ 10. 28(金)	県立図書館2階 通路ギャラリー	名和中学校が修学旅行で来館され寄贈
郷土学習ガイドを改訂！新たに麒麟獅子の学習ガイドができました！	R4. 10. 1(土)～ 10. 28(金)	県立図書館2階 ふるさと鳥取コーナー	
没後30年を迎えた松本清張と山陰のゆかり	R4. 11. 2(水) ～ 12. 7(水)	県立図書館2階 ふるさと鳥取コーナー	観光戦略課と連携
年始に因幡の白兔を読もう	R5. 1. 4(水)～ 1. 29(日)	県立図書館2階 ふるさと鳥取コーナー	松江観光協会との連携
鳥取県教育の源流 遠藤董-1月22日は遠藤記念日-	R5. 1. 13(金)～ 1. 29(日)	県立図書館2階 通路ギャラリー	

イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・昨年度寄贈を受けた本物の「解体新書」を紹介する資料展を開催し、あわせて鳥取県の洋学や医学についても紹介した。
- ・県民向けの「古文書に親しむ講座」（2回連続）及び県内図書館員向けの古文書解説講座（7回連続）を開催し、とっとりデジタルコレクションで公開している古文書や和歌等の解説に取り組んだ。
- ・「郷土文化講演会」は昨年度新型コロナウイルス感染拡大のため延期したものを3月に開催予定だが、会場参加に加えオンライン配信も行う。また、とっとりデジタルコレクションの活用についても紹介する。
- ・郷土情報の調べ方をまとめたパスファインダー「郷土学習ガイド」30テーマをすべて改訂した。また、新たなテーマの作成も行った。
- ・「鳥取県に伝わる昔話」の動画のYouTube配信（とっとりデジタルコレクション公開）を開始した。
- ・鳥取県内の話題等をテーマとした企画展示等を多数行った。
- ・市町村立図書館職員向け講座や行政職員向け研修（主催：鳥取県職員人材開発センター）で郷土資料の活用についての講義を行った。

ウ 成果及び効果

- ・鳥取県の歴史・文化・スポーツ・人物等の情報を発信する資料展、企画展示等を多数開催することにより、鳥取県の魅力や県出身者の活躍を発信することができた。
- ・古文書講座や講演会を開催することにより、とっとりデジタルコレクションの周知につながっている。また、古文書等の解説により、図書館員のスキルアップとなっている。
- ・郷土学習ガイドの改訂、昔話の動画配信は、子どもたちの調べ学習や教職員の教材収集等に役立っている。
- ・市町村立図書館職員や行政職員への研修により、県内全域への周知と活用が期待される。

## エ 課 題

- ・郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積・情報発信により一層努める必要がある。また、これまで当館で行った展示等を県内図書館や学校図書館で行うなど、広く県民に郷土情報を知ってもらえるような発信を積極的・魅力的に行う必要がある。
- ・郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化するとともに、貴重な郷土資料のデジタル化を推進し、利活用の普及啓発に努める必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
図書館国際交流事業	4,387				4,387
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

環日本海諸国（韓国・中国・ロシア）の原書やその地域について記述された日本語図書の収集・提供を行うとともに、様々な事業を通じて、鳥取県（県民）と環日本海諸国との交流を促進する。また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報収集・提供に努める。

(イ) 事業の実施状況

○環日本海諸国の図書館図書交換事業

・協定を結んでいる環日本海諸国の図書館との図書交換は以下のとおり。

中国河北省		韓国江原道		ロシア沿海地方		モンゴル	
河北省図書館		春川市立図書館		・ゴリキー図書館 ・沿海州児童図書館		中央県D.ナツアグドルジ記念公共図書館	
送付	受領	送付	受領	送付	受領	送付	受領
91冊	未着	121冊	112冊	—	—	20冊	20冊

※河北省図書館については、平成29（2017）年度から未着の状態が続いていたが、今年度、令和3（2021）年度分まで受領することができた。

※ロシア沿海地方（ゴリキー図書館、児童図書館）については、県とロシアの交流が凍結しているため、送付を見送っている。

○関係諸国の資料整備

・環日本海交流室・国際交流ライブラリーの閲覧用資料を購入  
（図書1389冊、雑誌40種、新聞4種）

○国際交流ライブラリー講演会の開催

期日	令和4年12月18日（日）
会場	主会場：境港市民交流センター みなとテラス サテライト会場：鳥取県立図書館、倉吉交流プラザ、岩美町立図書館 日野町山村開発センター、愛ベルこうふ （6会場） ※6会場及びオンライン配信のハイブリッド開催
参加者	88名
主催	鳥取県立図書館 共催：境港市民図書館
内容	ベトナムってどんな国？知ろう！つながろう！ベトナムと鳥取 【基調講演】講師：ダム・ゴック・クアン 氏（境港市国際交流員） 【対談】登壇者： ・グエン・ギ 氏（（公財）鳥取県国際交流財団 多文化共生コーディネーター） ・ファム・ティ・フエン 氏（境港市特定技能外国人（介護士）） ・ダム・ゴック・クアン 氏（前出） 進行役：鳥取県立図書館環日本海交流室室長

○「外国語で楽しむえほんのじかん」の開催

・外国語絵本の読み聞かせと外国の文化紹介を行った。・読み手：ボランティアと県立図書館職員

期日	令和5年2月18日(土)
会場	鳥取県立図書館2階 大研修室
参加者	20名(定員)
内容	講師：吳柏毅(ウーボォイー)氏(台湾から当館へのインターンシップ生、台湾国立中興大学の大学院修士課程2年) 内容：台湾華語と日本語でのえほんの読み聞かせ、台湾の文化紹介 読む絵本：『在森林裡／もりのなか』

○多文化を知るイベント「世界は広いぞ！知ろう！世界のあれこれ」の開催

期日	令和4年8月6日(土)
会場	ちえの森ちづ図書館及びオンライン配信 ※ハイブリッド開催
参加者	47名
主催	鳥取県立図書館 共催：ちえの森ちづ図書館
内容	講師：キップ・A・ケイツ氏(鳥取大学名誉教授、県内在住) 内容：50か国を旅行し9か国語を話せるカナダ出身先生による、外国の食の特徴や食材、食べ方の違いや食文化等の紹介

○国際交流ライブラリー企画展示

・国際交流、講演会に関する企画展示

名称	期間	場所
オシャレ！見事な「手仕事」！世界の民族衣装！	R4. 5. 1～R4. 8. 30	県立図書館2階 通路ギャラリー
英語多読を楽しもう	R4. 6. 1～R4. 8. 30	県立図書館1階 閲覧室入口及び 児童図書室
ベトナムってどんな国？	R4. 9. 1～R5. 2. 27	県立図書館2階 通路ギャラリー

・鳥取県が交流している国や地域に関する企画展示(県交流推進課と連携)

名称	期間	場所	来場者数
鳥取県が交流しているモンゴル中央県を紹介します	R4. 11. 1～R4. 12. 27	県立図書館2階 特別資料展示室	781名

・ピーナッツコレクションに関する展示

名称	期間	場所
ピーナッツから見るアメリカ文化 「ピーナッツバター&ジェリーサンドイッチ」	R4. 3. 1～R4. 5. 30	県立図書館2階 通路ギャラリー
ピーナッツから見るアメリカ文化 「アメリカ生まれの記念日！Mather's Day(母の日)、father's Day(父の日)」	R4. 6. 1～R4. 9. 29	県立図書館2階 通路ギャラリー
ピーナッツから見るアメリカ文化 「Reading!(読書)、Book Report!(ブックレポート)『ピーナッツ』の仲間たちはどんな本を読んでいるのかな？」	R4. 10. 1～R5. 1. 29	県立図書館2階 通路ギャラリー
ピーナッツから見るアメリカ文化 「子どものマネー教育」	R5. 2. 10～R5. 6. 29	県立図書館2階 通路ギャラリー

#### イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・国際交流ライブラリー講演会では、境港市民図書館と共催し、ベトナムをテーマに、企画段階から相談・調整を行った。また、サテライト会場を希望した市町立図書館等へオンライン配信を行った。また、コロナ禍においても多くの方に参加してもらえるよう、自宅等でのオンライン視聴も可能とした。
- ・多文化を知るイベントは、市町村立図書館への普及を目的に、県立図書館以外で開催した。
- ・企画展示では、国際交流に関する県政やその時々話題等をテーマに、関連図書を紹介した。特に、今年度は鳥取県とモンゴル中央県が交流25周年であり、交流推進課と共催の企画展示を行った。
- ・タイムフェスティバル（国際交流団体や在住外国出身者等がそれぞれの活動、国を紹介する催し）に出展し、国際交流ライブラリーの紹介や本の貸出を行った。また、直近の講演会の広報にも努めた。
- ・環日本海交流室・国際交流ライブラリーを紹介するスライドショーを作成し、上記の各事業において、PRする機会を作った。
- ・例年行っていた外国語図書選書のための専門書店（東京）への出張を、ここ2年コロナ禍で中止していたが、今年度は再開した。

#### ウ 成果及び効果

- ・国際交流ライブラリー講演会（1回）は、今回初めて、講演及び対談形式で開催した。鳥取県在住ベトナム人3人から、ベトナムのことや日本で暮らす楽しみや困り感等さまざまな視点について聞いた。参加者の満足度も高く、多文化共生や相互理解のきっかけとなった。関連図書の貸出も多く、図書館利用の促進につながった。また、昨年度に引き続き、主会場のほか、サテライト会場とオンライン配信も加えたことにより、参加しやすく好評だった。
- ・講演会や「多文化を知るイベント」を市町村立図書館と共催し県立図書館以外の会場で開催したり、図書展示、出前図書館等を行ったりしたことにより、県民が国際理解や環日本海諸国等への関心を深める機会を提供することができた。
- ・外国語図書の専門書店で現物選書を行うことにより、ニーズに合った選書ができた。

#### エ 課題

- ・国際理解のための講演会や行事等を引き続き開催し、国際交流ライブラリーの利用を促進する。また、図書館資料を活用した多文化共生をテーマとした交流イベントを継続開催し、県内在住外国人と地域住民の交流の場となるよう努める必要がある。
- ・市町村立図書館や関係課・関係団体と協力し、県内での環日本海交流室及び国際交流ライブラリーの周知や利用促進、並びに学校等へのレファレンスや資料提供、外国語学習等の支援を充実する必要がある。
- ・鳥取県が交流している環日本海の国々について、引き続き図書館としての交流や、国際理解のための活動を行う。
- ・ロシアとの交流については、ロシアのウクライナ侵攻により県全体で交流を凍結しており、当面再開の目途は立っていない。



(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
市町村立図書館等協力支援事業	7,321				7,321
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

市町村立図書館等の機能向上を図るため、資料・情報を提供すると共に、各館の職員のスキルアップを目的とした研修会・講座を開催する。各館と連携し、住民に対し図書館利用を啓発する事業を実施する。県全体の図書館サービスの高度化を図り、ネットワークの要としての役割を果たす。

(イ) 事業の実施状況

市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送、一括大量貸出、訪問相談、資料相談を行った。司書の技術向上を図るため、以下の研修事業を実施した。また、新規事業として図書館を活用した地域情報の発信について学ぶ研修会を開催した。

&lt;令和3年度の市町村立図書館等への貸出冊数&gt;

支援先	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(1月末現在)
市町村	58,524冊	54,282冊	53,352冊	46,704冊
高等学校	23,279冊	29,031冊	26,922冊	21,205冊
特別支援学校	15,192冊	17,200冊	14,659冊	11,941冊
病院図書室	4,313冊	4,582冊	2,160冊	1,889冊
大学・団体・その他	4,335冊	3,389冊	3,088冊	2,718冊
合計	105,643冊	108,484冊	100,181冊	84,457冊

※病院図書室は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、閉室など通常の図書館サービスが行えず、貸出冊数は減少している。

○図書館業務専門講座(年4回)

・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、図書館職員のスキルアップを目的とした研修を実施した。

内容・講師	期日	参加者	会場
「自分たちのまちの図書館を自分たちでつくる」 ・講師：下吹越 かおる 氏(指宿市立指宿図書館長、NPO法人本と人をつなぐ「そらまめの会」理事長)	R4.7.1	42名	鳥取県立図書館及びオンライン
「地域資料のデジタルアーカイブとその活用を考える」 ・講師：澤谷 晃子 氏(大阪市立中央図書館利用サービス担当課長代理)	R4.10.5	30名	鳥取県立図書館及びオンライン
図書館総合展2022カンファレンス in 鳥取 都道府県立図書館サミット in 鳥取	R4.11.26 ~28	延べ 623名	県民ふれあい会館・鳥取県立図書館及びオンライン

「住民が足を運びたくなる図書館とは～利用者の情報行動の傾向と意識調査から～」	R5. 3. 15	名	鳥取県立図書館及びオンライン
--	-----------	---	----------------

○図書館業務専門講座 + α

内容・講師	期 日	参加者	会 場
読書バリアフリー研究会 障がいのある子どもたちへの読書サポート 1. 鳥取大学附属特別支援学校 教諭 田中葉子氏、学校司書 入川加代子氏 2. 元鳥取県立白兔養護学校 司書教諭 児島陽子氏 ほか	R4. 6. 19	139名	鳥取県立図書館及びオンライン
「古文書に親しむ～とっとりデジタルコレクションのくずし字を読んでみよう～」 講師：入江宜明氏（元若桜町立わかさ生涯学習情報館長、郷土史家）	R4. 9. 16	26名	鳥取県立図書館及びオンライン

○新任職員のための図書館職員実務研修会

内容	期日	参加者	会 場
（１）講 義 １「住民に役立ち、地域に貢献する図書館を実現するために」 講師：支援協力課 課長 藤井 美華子 （２）事業説明「県立図書館の市町村立図書館支援・学校図書館支援について」 説明：支援協力課 市町村担当 係長 岩崎 武史 支援協力課 学校図書館担当 学校図書館支援員 間 久美子 （３）講 義 ２「著作権の基礎知識」 講師：資料課 課長 野沢 敦 （４）講 義 ３「資料相談（レファレンス）の基礎知識とデータベース活用法」 講師：情報相談課 相談担当 司書 松尾 佳美 （５）講 義 ４「本の正しい扱い方と本の補修」 講師：資料課 司書 石谷 仁美 （６）講 義 ５「郷土資料の収集と活用法」 講師：郷土資料課 学芸員 佐藤 紘一	R4. 4. 22	40名	鳥取県立図書館及びオンライン

○県立図書館職員が講師を務めた研修

・市町村立図書館職員のスキルアップのため、希望する図書館の研修会に出向き研修を行った。

内容・講師	開催市町村	期 日	参加者
江府町立図書館職員研修「やってみよう！『音読教室』～図書館で健康長寿～」 藤井 美華子（支援協力課長）	江府町	R4. 6. 23	6名
鳥取市立図書館職員研修「資料相談（レファレンスの基礎知識）ほか」 三田 祐子（情報相談課相談担当係長）ほか	鳥取市	R4. 6. 30	約20名
倉吉市立図書館職員研修「郷土資料及び情報の収集・活用」 佐藤 紘一（郷土資料課学芸員）	倉吉市	R4. 7. 28	14名
倉吉市立図書館職員研修「ストーリーテリング」 佐伯 真由佳（情報相談課児童担当係長）	倉吉市	R4. 11. 17	21名
公共図書館のDX推進に向けた中部市町勉強会（第2回） 野沢 敦（資料課長）	倉吉市	R4. 11. 17	12名

令和4年度学校司書合同研修会「学校図書館と著作権・とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」 岩崎 武史（支援協力課市町村担当係長） 橋中 真紀子（支援協力課学校図書館支援員）	南部町・江府町	R4.11.22	15名
鳥取市学校司書連絡会「学校図書館と著作権」 岩崎 武史（支援協力課市町村担当係長）	鳥取市	R4.12.17	19名
鳥取県西部地区公共図書館研修会「電子書籍・電子図書館について」 小林隆志（鳥取県立図書館長）	境港市	R4.12.27	7名

※学校図書館支援員の派遣は、「生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業」にも実績を報告している。

○県立図書館の職員が市町村の図書館運営に関する委員などを務めた事例

委員の名称・委員名	市町村名	任 期	備 考
岩美町立図書館協議会委員 岩崎 武史（支援協力課市町村担当係長）	岩美町	R.4.4.1～R5.3.31	
江府町図書館協議会委員 岩崎 武史（支援協力課市町村担当係長）	江府町	R.4.4.1～R5.3.31	
わかさ生涯学習館運営委員会委員 岩崎 武史（支援協力課市町村担当係長）	若桜町	R.4.4.1～R5.3.31	

イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大予防を徹底した上、多くの講座をハイブリッド開催とした。
- ・市町村立図書館を対象とした研修会への講師派遣を行い、それぞれの担当部署の職員が講師を務め、当館職員のスキルアップにもつながった。

ウ 成果及び効果

- ・講座のオンライン開催により1館から複数の参加が可能になった。また、移動時間が不要となるため、受講者への負担も軽減されている。
- ・研修は図書館経営、デジタルアーカイブ等のニーズの高いテーマを取り上げ、公共図書館の課題意識や情報の共有を図ることができている。

エ 課 題

- ・支援の充実のためには、各館を訪問し、現場のニーズを把握することが必要である。
- ・図書館が知の情報拠点としてこれまで以上に活用されるように、図書館のサービスや機能を広く県民に知ってもらうための市町村立図書館と協力した一層の取組が必要である。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
図書館運営費(資料購入整理費)	99,497	0		3,983	95,514
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

多様化・高度化する県民の要望に的確に対応するため、あらゆる分野の最新資料、専門的な資料、郷土資料、市町村や学校を支援する資料等、蔵書の充実を図る。

(イ) 事業の実施状況

○図書及び逐次刊行物の整備充実

・県民の専門的な要求にも応えられるよう資料の充実を図り、逐次刊行物については広範な分野で最新の情報が提供できるよう充実に努めた。

○不要資料の除籍による書庫スペースの確保

・複本や旧版のある資料、内容が古く利用のない資料、毀損により状態の悪くなった資料等の除籍を行った。

&lt;資料の整備状況&gt;

区分	R4年3月末 冊数	購入等 (寄贈含む)	除籍	計	R4年12月末 冊数	
蔵書合計	1,235,529	25,014	△ 8,782	16,232	1,251,761	
内訳	一般	851,124	18,641	△ 8,522	10,119	861,243
	郷土	151,710	1,901	△ 9	1,892	153,602
	児童	126,575	2,094	△ 227	1,867	128,442
	協力	83,156	2,300	△ 23	2,277	85,433
	その他	22,964	78	△ 1	77	23,041

イ 令和4年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・県政・地域の課題への対応や県民の豊かな暮らしをサポートするため、ビジネス支援や医療・健康情報サービスなどの課題解決型サービス実施のための資料の充実を図った。
- ・人の成長・学びを支えるための子どもの読書推進、学校図書館支援、生涯学習を支援するための資料の充実を図った。
- ・不要資料の除籍を行い、書庫の空き容量を確保し、資料を移動することで書架の狭隘化の改善に努めた。
- ・電子書籍の導入について情報収集、検討を行った。

ウ 成果及び効果

- ・市町村立図書館では持つことの困難な専門書・技術書など多様な内容の資料を収集することにより、県民が必要とする資料の提供を行った。
- ・探究学習や総合的な学習などに活用できる資料の貸出により、学校図書館支援を行った。
- ・除籍や書庫の整理により、書庫の空き容量を確保し、書架の狭隘化の状態を一部改善した。

エ 課題

- ・多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら、最新の資料を幅広く収集する必要がある。
- ・郷土資料については、出版情報を逐次確認しながら、網羅的な収集に努める必要がある。
- ・蔵書数の増加により、書庫の空き容量が減少してきているので、今後の資料増加に対応するため、不要資料の除籍を継続的に進め、空き容量を確保していく必要がある。
- ・電子書籍サービスの導入に向けて準備を進めていく必要がある。

